【様式１－１】

令和６年度　学校評価報告書

大牟田市立銀水小学校（ＮＯ１）

学校教育目標	夢や希望をもって粘り強く挑戦し、新しい時代を切り拓いていく子どもを育成する。	重点目標	表現する喜びを味わい、学ぶ楽しさを実感する子どもの育成

	評価計画			自己評価		学校関係者評価		改善計画
	重点目標	目標達成のための方策（取組指標）	成果指標	評価	結果（成果○と課題△）	評価	コメント	次年度における改善策（案）
重点目標に関する評価	■基礎基本の徹底 わかる・できる楽しい授業づくり	○既習を振り返らせたり、問題提示の工夫をしたりしてズレに気づかせ、「めあて」をつくつくる場面を設定している。【教師ｱﾝ　3.1以上】	○既習の学習内容と比較しながら、「なぜだろう」「やってみたい」等と追究意欲を高める子ども　【銀水っ子ｱﾝ　4　3.1以上】	3	○既習の振り返りや問題提示の工夫により、子どもの追究意欲を高めることができた。 ○教師が、本時での必要な数学的な見方・考え方をはっきりとさせた授業を行うことで、自分の考えを持つことができる児童が増えた。 ○自分の考えを深める交流活動の工夫により、最後まで自分で考えながら取り組む子どもが増えてきた。 △主体的に学習に取り組む児童の育成を目指しながら、テストにおいて結果を出せていない現状とその要因を分析し、共有して取り組む。 ○タブレット端末等を、自分の考えをつくったり、表現したりするツールとして活用し、交流活動が活発になってきている。	A	・学校の評価は適切である。 ・既習の振り返りや問題提示など、教師の色々な工夫（工夫した授業）が感じられる。これから成績は伸びてくるのではないか。 ・子ども達の学習意欲が高まったことは評価したい。 ・表現することは、とても大切なことであると思う。今後も継続していただけると中学校でも助かる。 ・高学年算数の成績アップを期待したい。 ・タブレット端末等の活用は、小さいころからゲーム等で慣れているので、吸収が早いと思う。	・子どもの学習意欲を高める工夫した授業づくりをさらに進めるために、実践を出し合い、効果の高い工夫を共通実践していく。 ・自分の考えを深める学習活動（表現する場や方法の工夫）を進め、自他を大切にし、自分の思いや考えを進んで表現（言葉や行動で）する子どもの育成を目指す。 ・自分の考えを表現できる子どもを育てることができるように中学校とも連携して進めていく。 ・テスト成績の要因を分析し、出てきた課題を次年度解決していく実践に職員全員で共通理解して取り組む。
		○子どもが自分の考えを持つことができるように、学習内容のつながり、学び方を明確にし、指導を積み上げている。【教師ｱﾝ　3.1以上】	○問題を解決するために、これまでに学習した内容をふり返ったり、友達のよい考えを取り入れたりして、最後まで自分で考えながら取り組む子ども　【銀水っ子ｱﾝ5・6・16 3.1以上】	3		A		
		○子どもたちが考える楽しさを味わうことができることができるように、焦点化した「主眼達成に迫る問い」を大切にした交流活動を工夫している。　【教師ｱﾝ　3.1以上】	○自分の考えを表したり、自分の考えと友達の考えを比べたりしながら、自分の考えをよりよいものにすることができる子ども　【銀水っ子ｱﾝｹｰﾄ8　3.2以上】	3		A		
		○授業の中で、児童が達成感や成就感を味わうことができる振り返りの場面の設定や声かけを行っている。　【教師ｱﾝ　3.1以上】	○問題が解けたり、今までできなかったことができたりした時に、喜びを感じる子ども　【銀水ｱﾝ１･9･10　3.2以上】【国･算ﾃｽﾄ 85以上】	2		B		
		○タブレット端末を使って必要な情報を調べたり、考えを交流したりしながら課題を解決する学習活動を行うとともにタブレットドリルの積極的活用を図る。　【教師ｱﾝ　3.2以上】	○タブレット端末等を使って、考えをつくったり、交流したりする楽しさを味わうことができる子ども　【銀水っ子ｱﾝｹｰﾄ 11　3.2以上】	4		A		
	■思いやりの心を持ち互いのよさを認め合う人間関係の育成	○銀水の３つの宝を大切にする意義を感得させ、自分たちで宝を磨いていこうとする意欲を高めさせる。　【教師ｱﾝ　3.0以上】	○銀水の３つの宝を大切にしようと自ら考え、行動する子ども　【銀水っ子ｱﾝｹｰﾄ 19－21　3.1以上】	4	○トイレのスリッパを並べたり、掃除に一生懸命に取り組む児童が増えた。 ○教師と児童の意識の違いに大きな差がある。聴き方の指導と教師側の話し方の工夫を共通実践する。 ○学級活動を中心として、話し合い活動や協力し合う課題に取組むことで、自分が学級の役に立ちたいと考える児童が増えた。 △保護者の評価は、やや低く、いつでも、実践できる児童を目指す。	A	・学校の評価は適切である。 ・自分の身の回りのことをきちんとできる子どもが増えているようだ。 ・掃除を一生懸命する子どもが増えたことは素晴らしい。 ・子ども達のことを理解する先生方がいることで、心が育っていると思います。 ・道徳的なことは、学校だけでなく、家庭の問題が大きいと思う。	・教師一人一人の意識や指導の差を減らし、共通して実践する内容（言葉をかける場面や話す言葉）を年度当初に確認し、実践しながら現状に合わせて修正していく。 ・保護者が集まる場（学級懇談会等）で、家庭での様子や気になるところ（低評価のところ）を聞き、学校と家庭で取り組めることやそれぞれの役割を共有し取り組む。
		○話の聴き方についての指導を徹底するとともに、子どもたちが話を聴くことができるように話し方を工夫する。　【教師ｱﾝ　3.1以上】	○話を聴く意義を理解し、先生や友達の話を聴くことができる子ども【銀水ｱﾝ15　3.1以上】	3		A		
		○みんなが安心できる学級づくりを目指し、児童が協力して課題を解決したり、心のつながりを強めるための活動を工夫する。【教師ｱﾝ3.1以上】	○学級の課題を話し合ったり協力したりしながら、課題解決に向けて活動し、役に立つ喜びを味わう子ども【銀水っ子ｱﾝ 22・23　3.1以上】	4		A		
		○道徳科学習や日々の教育活動を通して、きまりや約束の意義を理解させ、それを守るよう指導している。　【教師ｱﾝ　3.1以上】	○きまりや約束の意味を理解し、安心・安全な学校生活をつくる子ども　【銀水ｱﾝ29　3.1以上、保ｱﾝｹｰﾄ3.1以上】	3		A		
	■健やかな体の育成	○自分のめあてを持って、友達と関わりながら様々な運動に取り組ませ、「できる」「分かる」楽しさを味わわせている。【教師ｱﾝ　3.1以上】	○他の児童と一緒に様々な運動に楽しく取り組む子ども 【銀ｱ30･31･32　3.1以上、保ｱ13　3.1以上】 【目標値：新体力テスト　DE群昨年値－α】	3	○休み時間に外で体を動かして遊ぶことをとても楽しみにしている児童が多く、他学級他学年とも関わり合う活動ができてきている。 △体育の授業中や休み時間に保健室へ来る児童は少なくない。自分は自分で守る児童の育成を目指す。 △食に関する興味・関心を高めながら、苦手なものでも少しでも食べる子どもを目指していく。	A	・学校の評価は適切である。 ・自分の健康管理は自分で取り組むことができる子どもになってほしい。 ・子どもが、擦り傷ぐらいするのは当たり前で良いと思う。 ・安全配慮が徹底されている。 ・偏食については、学校側の努力が見られます。家庭と連携した取組が必要と思う。	・外遊びを奨励し、遊びを通した同学年異学年との交流に積極的に取り組む。 ・健康管理やけが防止等、自分でリスク管理ができる児童を目指して、声かけ指導を継続していく。 ・楽しい給食時間が過ごせるように、食の大切さを学年に応じて指導していく。
		○日常の教育活動を通して、交通ルールや危険な行動について理解させ、けがの予防について指導している。　【教師ｱﾝ　3.1以上】	○危険を察知し、けがを未然にふせぐことができる子ども 【目標値：校内での受傷件数を昨年度－10％】	3		A		
		○日常の教育活動を通して、食と健康の関係や食文化について理解させ、楽しい給食の時間となるよう指導している。【教師ｱﾝ　3.1以上】	○好き嫌いなく、偏食をせずに給食を楽しくおいしく食べる子ども 【目標値：給食の残菜率を前年度比-0.2％】	3		A		
いじめ防止	■未然防止の取組 ■早期発見・早期対応	○互いのよさを認め合う学級風土を醸成するために、児童相互の理解を深める活動を設定したり、積極的によさを認め、褒めたり、価値づけを行ったりしている。【教師ｱﾝ　3.1以上】	○お互いの個性を理解し、よさを認め合いながら助け合って学校生活を送る子ども　【銀水っ子ｱﾝｹｰﾄ 26・27　3.1以上】	4	○安心・安全な学級学校をつくるという教師側の強い意識と学級内の互いを認め合う活動の工夫により学級風土ができてきている。 ○毎月のアンケートの実施と結果に対する聞き取り対応の徹底により明るく学校生活を送ることができる児童が増えている。	A	・学校の評価は適切である。 ・異学年の子どもが一緒に仲良く登下校する姿が見られる。 ・アンケート後、すぐ聞き取る対応を大切にされていることが、安心できる学校づくりにつながっている。	・互いの違いや良さを認め合うことを進め、自他を大切にする学級学校の風土づくりに努める。 ・引き続きアンケート後の対応を素早く丁寧に行い、子どもとの信頼関係につなげていくことを職員間で共通理解し実践する。
		○毎月のいじめチェックリストを実施し、気になる変化やトラブルが明らかになった時、迅速に対応しそれを記録している。　【教師ｱﾝ　3.1以上】	○気持ちを理解してくれる友達を持ち、明るく前向きに学校生活をおくる子ども 【生活ｱﾝ24・25　3.1以上、友達との関係 保ｱﾝ　3.1以上】	4		A		
不登校防止	■未然防止の取組 ■早期発見・早期対応	○生徒指導の機能【自己決定・自己存在感・共感的人間関係・安心・安全】を実践し、児童の自尊感情を育む学級経営を行っている。　【教師ｱﾝ　3.1以上】	○自分のよさを感じ、友達と協力してよりよい学校生活をつくろうとする子ども 【銀水っ子ｱﾝｹｰﾄ 18-21　3.1以上、保ｱﾝ3 4 5　3.1以上】	4	○学級が児童にとって安心・安全な場所になることを中心として学級経営を行っていることが、児童・保護者の意識につながっている。 ○児童理解を組織的に進め、SCやSSW、関係機関と連携をとり適切に対応を進めることができている。	A	・学校の評価は適切である。 ・個別の対応を担任だけでなく先生方皆さんで取り組んでいることが分かった。 ・学校が楽しいと言える子どもをこれからも育てていってほしい。	・今後も、学校が楽しい、学校が好き、友達と一緒に過ごせる学校へ行きたいと思える子どもを育てることを目指して、自分の居場所のある安心・安全な学校をつくるために実践を続けていく。
		○福岡アクションスリーを実行し、児童のわずかな変化【対人関係・言動】に気付き、すぐに対応・記録・報告を行ってる。【教師ｱﾝ 3.1以上】	○学校に行くのを毎日楽しみにしている子ども 【銀水っ子ｱﾝｹｰﾄ12　3.3以上、保ｱﾝ8,11,12　3.3以上】	4		A		
働き方改革	■教職員の意識改革 ■業務改善の推進	○設定された定時退校日に、18:00までに業務を終了し、18:30までに退校を完了している。【通常は、19：00】　【教師ｱﾝ　3.0以上】	○仕事全体の見通しを持って、その日の業務を限られた時間の中で効率よく進めるタイムマネジメントを行っている。【教師ｱﾝ　3.0以上】	2	△超過勤務時間は減少傾向にあるがアイデアを出し合いながら、更に効率的な業務遂行を進めていく。 △働きやすいと感じる職員がさらに増えるよう職員間の関係性を大切にして、職員室づくりに努める。	A	・学校の評価は適切である。 ・評価が低いが、それだけ先生方の意欲が感じられる。 ・超過勤務時間を減らすことは大事だが、働きがいを職員も持つことも大切なので、職員間の関係性づくりを大事に。	・教育活動の充実に向けて、業務の整理し、共通実践による効率化も図りながら、業務改善を進めていく。 ・心情面での負担感を減らす職員間の関わりを大切にする。
		○毎月、書面による業務改善会議を開催し、改善策を職員から吸い上げ、その効果等を吟味して積極的に改善を図る。【教師ｱﾝ　3.0以上】	○教職に生きがいを感じ、働きやすい職場だと感じてる職員　【教師ｱﾝ　3.0以上】	3		A		

◇　評価について　・【自己評価】　４：目標達成（９０％以上）　３：ほぼ達成（７０％～９０％）　２：もう少し（６０％～７０％）　１：できていない（６０％未満）
・【学校関係者評価】　Ａ：自己評価は適切である　Ｂ：自己評価は上方修正すべきである　Ｃ：自己評価は下方修正すべきである